

2018年5月11日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 米田 久美子

Bangladesh国マタバリ港開発事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年4月20日(金) 14:00~17:45
- ・場所：JICA本部(1階111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、鈴木委員、林委員、升本委員、米田委員
- ・議題：Bangladesh国「マタバリ港開発事業(協力準備調査(有償))」スコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：協力準備調査報告書(スコーピング案)、回答表及び別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第90回助言委員会)

- ・日時：2018年5月11日(金) 14:30~16:48
- ・場所：JICA市ヶ谷ビル(202A・B会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 先行（隣接）事業である「マタバリ超々臨界圧石炭火力発電事業」の環境社会配慮の実施状況や課題等を本事業に反映できるように、両事業の連携を密に行うこと。また、先行事業の環境社会配慮状況の進捗・課題等の確認結果を DFR に記載すること。
2. 本事業の実施機関等によって構成される調整委員会を通じて、本事業及び上記発電事業に関連する評価及び緩和策について関係者間（両事業の担当部局及びコンサルタント）で意見を一致させながら実施すること。
3. 本事業において、上記発電事業との累積的影響が及ぶ範囲を考慮したうえで、累積的影響にかかる影響評価・緩和策について DFR に記載すること。

代替案の検討

4. 浚渫及び浚渫土の海洋投棄並びに泊地の整備が生態系及び漁業に与える影響について調査し、影響評価結果を DFR に記載すること。

スコーピングマトリクス

5. 保護区で事業を実施しない場合でも、保護区に影響が及ぶと想定されるので、B- または C とすること。
6. 港湾部における廃棄物、廃油及びバラスト水の投棄に対する取り締まり方策を確認し、不十分な場合には相手国政府に改善を申し入れる旨、DFR に記載すること。

社会配慮

7. 土地無し小作人に対する生計回復支援の可能性を検討し、DFR に記載すること。
8. 本事業は、エビ養殖、沿岸と河川での漁業、採塩などの自然環境を利用した住民の生計が営まれている地区において、工事及び運用が実施される。自然環境資源の劣化あるいは減少をもたらす土砂の浚渫・投棄、航路および泊地の整備、アクセス道路建設を行うことが予定されている。工事により海浜の喪失、海洋生態系と陸域への影響が生じ、それらの影響が住民の生計様式に多くの影響をもたらすことが予想される。そのため、個々の工事作業から生じる直接の影響の評価をすると同時に起こりうる連鎖的な影響をできる限り正しく見積もり、住民と住民の生計への影響を評価し DFR に記載すること。

以 上